

皆さんのおかげでした・・by 川の道 265キロへの挑戦

二重作 裕子

第5回 日本横断「川の道」フットレース

荒川を太平洋から上流へと遡り、三国峠を越えて、信濃川沿いに日本海へと続く壮大な「川の道」

520キロを走りぬく超長距離レース

520キロ（132時間制限）・265キロ（60時間）・255キロの（54時間）3種目

100キロを2度、15時間以上の完走しか経験のない私が、なぜ「川の道ハーフ」にエントリーしようと思ったのか、終わった今でもわかりません。毎度、練習会ではドンケツで、数多くの大会でも誇れるようなタイムは出せません。でも、必ず完走する。。ということだけが私の密かな自慢です。どこまで自分と向き合えるか。自分を褒めることが出来るか。試してみたかったのかもかもしれません。

武田さんの全面協力をばねに、エントリーした後の後悔。眠れぬ日が続きました（笑）。

前日受付兼開会式に出席し、部屋の片隅で「なぜ私がここにいるのだろうか?」「いていいのだろうか?」とすばらしいランナーの方々に圧倒されていました。

4月30日9時、葛西臨海公園スタート。平日にもかかわらず市川MCの人が何人も応援に駆けつけてくれました。ハイドレーションの使い方がわからず、みんなで「あーでもない。こーでもない」とセットしてくれました。かなり不安なスタート時であります。これで265キロも目指せるのでしょうか。。それでも周りの心配顔を背に「いってきま〜〜す」。

しずさん、藤井さん、竹内元さん、河野さんが伴走してくれました。

葛西臨海公園から埼玉県戸田市 彩湖畔までの35.7キロが私には一番の過酷な道のりでした。暑さに弱く汗っかきで、水分を取りすぎ、彩湖が近づくにつれ、何度となく立ちくらみに襲われ、「何だ〜彩湖でおわりか〜〜」という思いがかすめるようになりました。とにかく第1ポイントは通過したいと。。

第1ポイント

14時21分

今回私のエントリーを知ってボランティアとして参加してくれた大沢さん。前半を車でサポートしてくれる主人。

スタッフの方々の顔見て、ポイント通過の送信を8人に送り、195キロ近くで待っていてくれる洋子さん、行美さんの顔を思い浮かべ「こんなところで終わるわけにいかない」とカツをいれ、第2ポイントへの1歩を踏み出しました。

第2ポイント 49.6キロ さいたま市新上江橋東側 (R16号)

17時03分

森林公園でうずくまっているランナー。全身つって動けないでいた走る落語家(三遊亭楽松師匠との出会いでした。後に再会毎に師匠の人並みはずれた精神力を見せつけられることになりました。

今回のレースで得た私の人生観が変わる思いをした、出会いの方の一人でした。

第3ポイント 65.6キロ 吉見町桜堤公園入り口

20時08分

第4ポイント 74.5キロ 吹上町大芦橋南西側

22時03分

第5ポイント 86.7キロ 国道17号、140号交差点熊谷警察署前

1時10分

「道の駅」のベンチでシートを敷き1時間ほど横になりました。生まれて初めての経験です。

気持ち良さそうに眠りに付く武田さんを横目に経験の差を感じます。でも横になれるだけ

でもと目を瞑りました。深夜の走行は意外と楽しく感じました(気温が下がったせいもありますが)。

第6ポイント 103.8キロ 寄居町東武東上線玉淀駅 6時29分
ついに100キロ突破。ここからは未知の世界です。まだ筋肉痛はない。足も動く。立ちくらみもありません。「150キロ越えられかも」 長瀬を越えた辺りからの国道に歩道がありません。予定時間を大幅に遅れ、交通量のピーク時にそこを通ることになってしまいました。壁に張り付きダンプカーが過ぎるのを待ちます。リュックがスピードを落とさないダンプに引っかかるのではないかと恐怖感が押し寄せます。それでも引き返すことは出来ません。ここで2度目の後悔をしました(笑)。

第7ポイント 129.8キロ 秩父市国道140号、299号(上野町交差点) 13時02分
100キロを越えた辺りから食欲が減り、喉こしの良い物しか食べれなくなりました。コンビニでプリンやアイスクリームばかり。それでは体力が続きません。武田さんの勧めでレトルトのおかゆに塩を振り食べてみました。美味しく1袋胃の中へ。足は筋肉痛、張りはないのですが、裏が突き刺すように痛い。マメが出来たのは初めてでした。

150キロ 大滝温泉 18時50分
こまどり荘170.2キロ 20時関門閉鎖 残り20.2キロを残し、関門に届かないと判断しここでリタイア。こまどり荘に主人の車で向かうことにしました。こまどり荘よりオープン参加ということで、三国峠に備え休憩時間を取ることにしました。こまどり荘への20キロの道のりは真っ暗な山道で長く厳しいものでした。暗闇の中にランナーのライトが揺れています。ライトをかざし地図を確認しています。車の中からそんな姿を見て少し後悔しました。隣の武田さんはもっと悔しい気分だろうと言葉を交わせませんでした。ごめんなさい。

第9ポイント 170.2キロ(スタートからの距離) こまどり荘 0時38分出発
スタッフにカレーやトン汁、ビール(美味しかった)をいただき、お風呂に入り(体重が5キロ減)、2時間の仮眠を取りました。痛んでいた足裏は腫れ上がり、半分以上水ぶれでした。指も左5本右2本は水ぶくれが出来ていました。
こまどり荘を出ると、漆黒の闇の中、三国峠が始まります。マメだらけの足に林道の石が容赦無く突き刺さります。時代劇の拷問シーンが浮かびます。「何も白状することないのに・・・」。時々獣がいるのか落石もあります。空を見上げると降るような星空が広がっていました。応援してくれている仲間友人の顔が浮かび泣きました。ひとしきり泣くと、もう一人の自分が「はいはい。気が済んだカナ? 前には進んでるぞ～～がんばろうね」と。
(何度かこんなシーンが有りました)

第10ポイント 188.5キロ 埼玉・長野県境三国峠 6時00分
ここを過ぎると一気に舗装道路を下る。195キロ地点に竹内夫婦、行美さんが私設エイドを午前3時から開いていてくれます。
どんなにランナー達の憩いになったことでしょうか。本当に有難うございました。
武田さんの一人旅なら、ゴールの小諸の制限時間に間に合います。ここからは別れて小諸を目指すことにしました。
私のマメは限界に近づいていました。痛み止めが効かず足を引くようになっていました。

第11ポイント 218.2キロ 南牧村国道141号市場交差点 14時39分
なぜかゆっくりですが走れています。途中のスーパーでおにぎりを買ってかぶりつけるほど食欲は回復していました。前後にランナーはいません。道行く人に「なにをしているの

か？」尋ねられ、レースのことを話すと、一様にエールを送ってくれ、車からの声援が大きき力になりました。時々サングラスの中で例のごとく泣いたり励ましたりしながら、進んでいきました。

実質走行距離が200キロを越えたころ、師匠に再会しました。コンビニを出て歩道で躓き、縫うほどのあごの傷。驚くほど血が滴り落ちていました。それでも薬局で手当てしてもらい前へ前と。新潟に128時間で完走したそうです。今現在、日本縦断に挑戦中です。

約240キロ 佐久町

19時49分

限界でした。竹内さんに電話をして迎えに来てもらいました。ここで私の「川の道」は終わりました。

前夜と同様、車の中から、小諸の町をライトを照らしながらひた走るランナー達を見ました。新潟を目指すランナーたちです。

いつかは私もあの仲間（ハーフで十分ですが）になりたい。主催の舘山さんの言葉「決してあきらめない」が浮かびました。

200キロ越えのダメージは大変なものでした。2日間杖を突き、1週間靴が履けず、爪が3本なくなりました。それでも得たものは大きなものでした。無謀な挑戦でしたが、スタートラインに立って良かった。

市川MCの仲間の伴走、メールの応援。2日間寝ないでスタッフとして参加してくれた大沢さん。私設エイド、車でサポートしてくれた竹内夫婦、渡辺さん。ありがとうございました。

このレースに参加することに全面協力してくれた夫。2日間寝ないで車でサポートしてくれました。この220キロは夫婦2人3脚で走ったものだと思っています。リベンジのときは、またお世話かけます。

私との伴走で、完走できなかった武田さん。色々なアドバイス。経験不足による沢山のアクシデント。本当にお世話になりました。

市川MCの皆さんに「よく頑張ったね」とお褒めの言葉を頂きますが、まだ完走していません。ウルトラの練習、勉強して、いつかリベンジします。完走までその言葉、取っておいてください(笑)。